シンポジウム

文化遺産を知り そして伝える

メコンがつなぐ文化多様性

2020年1月25日【土】 10:00~16:00

会場：早稲田大学小野記念講堂
小野梓記念館(27号館)地下2階　東京都新宿区西早稲田1-6-1

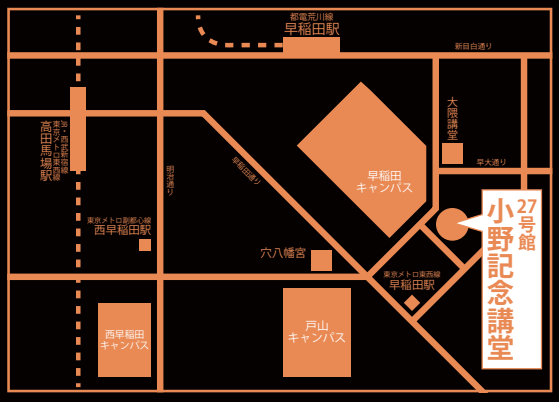
※参加費無料です。
※事前登録は不要です。
※使用言語は日英同時通訳です。

主催：文化庁、早稲田大学文化財総合調査研究所　協賛：株式会社文化財保存計画協会
後援：文化遺産国際協力コンソーシアム、カンボジア大使館、ミャンマー大使館、東南アジア考古学会

国際シンポジウム

文化遺産を知り そして伝える

メコンがつなぐ文化多様性



プログラム

10:10〜10:10　開会挨拶／趣旨説明　花井俊介（早稲田大学総合研究機構長）

10:10〜11:00　講演①「世界文化遺産マネジメント」　コン・プティカ

カンボジア、プリアヴィヘア機構総裁。
1980年、プノンペン生まれ。プノンペン王立大学で英語教育を学んだのち、立命館アジア太平洋大学大学院の国際協力政策専攻において修士号を取得。2007年から2012年まで閣僚評議会プレア・ヴィヘア国家特別委員会メンバー、2012年からプレア・ヴィヘア機構観光開発部部長、2015年から同総裁に就任。プレア・ヴィヘア遺跡やコー・ケー遺跡の発展・修復を促進するとともに、地域と国際社会をつなぐ広報活動にも力を注いでいる。

11:00〜11:50　講演②「バガン遺跡：世界遺産登録までの道のり」　テイン・ルイン

ミャンマー、宗教文化省・国立博物館副局長。
1962年生まれ。考古学修士。専門は考古学。1996年より文化省考古局の調査官として、インド及びミャンマー国内（バゴー、ベイタノー、シュリークシェトラ等）における発掘調査に従事。ピュー考古学フィールドスクール副学長、考古局バガン支局長を経て、2000年より考古・国立博物館局副局長。発掘調査、碑文研究、博物館維持管理、建造物保存修復、及びそれらに関わる専門家育成に携わる。2019年に世界遺産に登録されたバガン遺跡の推薦書作成チームを主導した。

〜休　憩〜

13:30〜14:10　講演③「東南アジアにおける東京文化財研究所の文化遺産国際協力」　友田正彦

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所、文化遺産国際協力センター長。
1964年生まれ。工学修士、一級建築士、技術士（建設部門）。専門は建築史および文化遺産保存。1993年よりアンコール遺跡救済事業に参加、日本政府チームの現地事務所長としてバイヨン寺院北経蔵修復等に従事した後、国内外の考古・建築遺産保存整備事業に関する計画策定・設計・監理等を数多く手掛ける。2008年より東京文化財研究所にて文化遺産国際協力事業を担当、2019年より現職。インドネシア、ベトナム、カンボジア、タイ、ミャンマー、ブータン、ネパールほかにて調査研究、保存修復支援、人材育成等に携わってきた。文化遺産国際協力コンソーシアム事務局長、日本イコモス国内委員会理事。

14:10〜14:50　講演④「奈良文化財研究所の文化遺産国際協力：メコン流域諸国を中心に」　佐藤由似

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所企画調整部国際遺跡研究室専門職。
1981年生まれ。考古学修士。専門は東南アジア考古学。2004年よりカンボジアにおける考古学調査に参加。2007年より奈良文化財研究所カンボジアプロジェクトスタッフ、2011年より奈良文化財研究所企画調整部国際遺跡研究室研究補佐員として、アンコール遺跡群の西トップ寺院調査修復事業に専属的に従事する。2016年度より現職。アンコール王朝以降の中近世カンボジアにおける王都や日本人町のほか、ミャンマー、タイ、ベトナムにおいて現地の研究者らと共に調査研究を行っている。

〜休　憩〜

15:30〜16:30　無形文化遺産パフォーマンス・解説　山中ひとみ

カンボジア舞踊企画制作・教室「SAKARAK（サカラッ）」主宰、よみうりカルチャー講師、茨城キリスト教大学兼任講師。
お茶の水女子大学哲学科美学美術史卒。タイのチェンマイ舞台芸術学校聴講生を経て、日本人として初めてカンボジア王立プノンペン芸術学校古典舞踊科を卒業し、ボッパー・デヴィ王女より古典舞踊を教える許可を得る。アンコール遺跡、大使館、愛・地球博などで舞台を務め、世界舞踊祭（於：国立劇場）で技能賞を受賞。シハモニ国王やフンセン首相来日時には、首相官邸昼・晩餐会に招かれる等、各界との交流も深い。近年は、日本古典文学を題材にしたカンボジア舞踊を創作しながら、よみうりカルチャーセンターやカンボジア舞踊教室ＳＡＫＡＲＡＫ（サカラッ）で教え、定期的に自主公演や発表会を開き後継者の育成にも力を入れている。

16:30〜16:40　閉会挨拶　主催者

「偉大なる川」を意味するメコンは、東南アジア最長の国際河川であり、その流域に豊かで多様な文化・文明の誕生と交流をもたらしてきました。

これまで日本は、長年にわたりASEAN各国において文化遺産保護・人材育成分野での緊密な協力関係を構築してきました。とくに、文化庁「文化遺産国際協力拠点交流事業」やユネスコ文化遺産保護日本信託基金による諸事業はメコン地域諸国でも盛んに実施されており、日本の様々な機関が現地研究者や研究機関と協力し、有形・無形の多様な文化遺産の調査研究・保存活用の両面で大きな成果をあげています。

今回、メコン地域諸国に所在する文化遺産の調査研究や保存活用の分野における協力活動の足跡、そして現在進行中の活動を紹介するため、カンボジアとミャンマーから専門家をお招きし、それぞれの国での文化遺産に対する取り組みや最新の成果をご講演いただきます。あわせて、東京文化財研究所、奈良文化財研究所の専門家からも、これまで日本がメコン地域諸国で実践してきた文化遺産協力事業についてご講演いただきます。また、メコン地域諸国の文化に触れることのできるイベントとして、カンボジアに現在まで伝わる伝統舞踊のパフォーマンスも企画いたしました。

本シンポジウムが、メコン地域諸国の豊かな文化遺産と、それらをめぐる様々な協力事業への理解の一助となれば幸いです。

主催者